

【令和6年度自己評価結果公表シート
せいか保育園】

1. 本園の教育目標

【将来幸せになる子、伸びて育子を育てる】を本園の理念に掲げ、【褒め育て長所伸展法】を方針としている。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し思考する過程を大切にした教育を目指している。また、【幼児の頃こそ本物を】の方針の下、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教員との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子ども園の教育課程の内容を確認し、教職員の 共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、子ども園が今後担う役割について検討する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	A	毎月の研修や日々の報告会を通して子ども園要領の理解を全教職員で、積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について話し合いを行っている。
状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	A	保育内容を今すぐにでる結果にこだわらず、将来の子どもたちの成長につながるように、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討をし、園の環境を中長期的に更新している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	A	幼児の発達の姿を捉えるための研修を定期的実施するとともに、日々の幼児の姿について話し合う機会を毎日の定例職員会議でもち共通理解できるようにしている。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	A	行事などについてアンケートを実施。出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組みつつある。特に夏の暑さ対策で行事日程を変更し公開している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理	不審者対策を施設面での対応を行っているが、ヒヤリハット報告により、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルを徹底していきたい。また、いつ大震災が起きるか分からない現在だからこそ保護者様との連携を強化する。
特別支援教育	幼児に対応した個別の指導計画の作成を検討するとともに、医療・福祉の関係機関との連携をどのようにするかを検討し、引き続きグループ園での支援室を利用していく。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待することも園像を把握し、現代社会において求められるこども園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。

1. 本園の教育目標

【将来幸せになる子、伸びて育子を育てる】を本園の理念に掲げ、【褒め育て長所伸展法】を方針としている。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し思考する過程を大切にした教育を目指している。また、【幼児の頃こそ本物を】の方針の下、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教員との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子ども園の教育課程の内容を確認し、教職員の 共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園と しての中・長期のビジョンを明確化し、保育園が今後担う役割について検討する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	A	毎月の研修や日々の報告を通して子ども園要領の理解を全教職員で、積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について話し合いを行っている。
状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	A	保育内容を今すぐにする結果にこだわらず、将来の子どもたちの成長につながるように、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討をし、園の環境を中長期的に更新している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	A	幼児の発達のを捉えるための研修を定期的実施するとともに、日々の幼児の姿について話し合う機会を毎日の職員会議でもつようにし、教え会える機会を作っている。

<p>保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。</p>	<p>A</p>	<p>行事などについてアンケートを実施。出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組みつつある。</p>
--	----------	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理	火災避難訓練に力を入れて取り組み、現場発見からの動線をしっかりと職員と共有していきたい。また不審者訓練を日ごろから取り入れ、安全に子どもたちを誘導できるよう日々鍛錬したい。
特別支援教育	幼児に対応した個別の指導計画の作成を検討するとともに、医療・福祉の関係機関との連携をしっかりとし、今後もグループ園の支援室を利用していく。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する保育園像を把握し、現代社会において求められる保育園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。

ふたかみの森せいか
子ども園

1. 本園の教育目標

【将来幸せになる子、伸びて育子を育てる】を本園の理念に掲げ、【褒め育て長所伸展法】を方針としている。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し思考する過程を大切にしたい教育を目指している。また、【幼児の頃こそ本物を】の方針の下、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教員との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子ども園の教育課程の内容を確認し、教職員の 共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、こども園が今後担う役割について検討する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	A	毎月の研修や日々の報告を通して子ども園要領の理解を全教職員で、積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように、具体的な場面について話し合いを行っている。
状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	A	保育内容を今すぐにする結果にこだわらず、将来の子どもたちの成長につながるように、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討をし、園の環境を中長期的に更新している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	A	幼児の発達の姿を捉えるための研修を定期的を実施するとともに、日々の幼児の姿について話し合う機会を毎日の職員会議でもち共通理解できるようにしている。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	A	行事などについてアンケートを実施。出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組みつつある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理	不審者対策を施設面での対応を行っているが、ヒヤリハット報告により、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルを徹底していきたい。
特別支援教育	幼児に対応した個別の指導計画の作成を検討するとともに、医療・福祉の関係機関との連携をどのようにするかを検討し、今後、園内の療育支援室を利用していく。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待することも園像を把握し、現代社会において求められることも園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。